

詩篇17－21篇「王の救い」

1A 王の潔白 17－19

1B 正しい訴え 17

1C 心の潔癖 1－9

2C 引き裂く敵からの救い 10－15

2B 敵からの救い 18

1C 救いの岩なる主 1－3

2C 大水からの救い 4－19

3C 義に対する報い 20－34

4C 国々の征服 35－45

5C 国々の中での賛美 46－50

3B 主への畏れ 19

1C 黄道にある栄光 1－6

2C 主の仰せのきよさ 7－11

3C 罪からの守り 12－14

2A 民の執り成し 20－21

1B 勝利への祈り 20

1C 王の献身 1－5

2C 御名の誇り 6－9

2B 勝利への感謝 21

1C 王への尊厳と威光 1－6

2C 御力ゆえの賛美 7－13

本文

詩篇 17 篇を開いてください、今日の学びは 21 篇までです。この五篇に流れている主題を汲み取ってみますと、「王の救い」となるでしょう。ダビデは神によって王として任じられました。そして、自分の主君サウルに追われる身となりました。けれども王となり、今度は、周囲の国々が攻めてくるので戦わなければいけませんでした。そしてついに、神がそれらの諸国を平定してくださいました。個人的にも、国としても敵によって滅ぼされるという苦しみをダビデは味わいました、けれども、主が救いを与えてくださり、また国々には勝利を与えてくださいました。このことが、それぞれの詩篇の背景になっています。

1A 王の潔白 17－19

1B 正しい訴え 17

17 ダビデの祈り

ダビデの祈りですが、彼がサウルから追われている時に祈ったものと思われます。

1C 心の潔癖 1-9

7:1 主よ。聞いてください、正しい訴えを。耳に留めてください、私の叫びを。耳に入れてください、欺きのくちびるからでない私の祈りを。17:2 私のためのさばきが御前から出て、公正に御目が注がれますように。

ダビデの祈りの切実さが伝わってきます。三度、祈りを聞いてくださいという願いを立てています。そして彼の祈りの主眼は、「**欺きのくちびるではない**」ということです。彼は今、サウルの陣営に追われていて、サウルはダビデが悪を自分に図っていると思っています。ダビデとしては、もし自分がそのような悪を行なっているのであれば、それに対する裁きを甘んじて受けたいと思っています。けれども、何一つ身に覚えのないことを訴えられています。それで、「正しい訴えを、聞いてください」とお願しています。そして、主ご自身が公正にこの状況を裁いてくださいますようにと言っています。

17:3 あなたは私の心を調べ、夜、私を問いただされました。あなたは私をためされましたが、何も見つけ出されません。私は、口のあやまちをしまいと心がけました。17:4 人としての行ないについては、あなたのくちびるのことばによりました。私は無法な者の道を避けました。17:5 私の歩みは、あなたの道を堅く守り、私の足はよろけませんでした。

ダビデは、自分の心、口から出る言葉、そして自分の行動、また自分の歩み、つまり生き方について調べました。サウルに殺されるようなことを私はしているのか？自分にまず悪意があるかどうか、調べました。けれども、彼は欠けたところを見出せませんでした。サウル王についてダビデが悪いことを言ったのを、私たちは読むことができません。サウルを殺すことのできる機会が二度ありましたが、彼は手を下すことはありませんでした。

ダビデはここで、罪なき無欠を話しているのではなく、潔白であることを話しています。彼は絶えず、自分自身を試しました。例えば、「主よ。私を調べ、私を試みてください。私の思いと私の心をためしてください。(詩篇 26:2)」と言っています。これは神に信頼を寄せる者が保っているべき姿勢です。使徒パウロは、聖餐にあずかる時に「ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、飲みなさい。」と言いました。そして、「もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。(1コリント 11:28,31)」と言っています。良心を清くしておくことは、キリスト者の生活で重要な部分を占めます。

そして試練や苦しみは、自分を試すのには良い機会になります。ダビデはサウルに追われたことによって、自分と主との歩みを確かめることができました。このことによって、ますます信仰が純化していったのです。「**信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであ**

って、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。(1ペテロ 1:7)」

17:6 神よ。私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。耳を傾けて、私の申し上げることを聞いてください。17:7 あなたの奇しい恵みをお示してください。立ち向かう者から身を避けて右の手に来る者を救う方。17:8 私を、ひとみのように見守り、御翼の陰に私をかくまってください。17:9 私を襲う悪者から。私を取り巻く貪欲な敵から。

ダビデは、サウルからの救いを願っている時に、自分の潔白だけでなく、神の「奇しい恵み」をお願いしました。ここの「恵み」とは、愛から来る神の真実を示す「ヘセド」が使われています。そこまでする義務はないのに、それでもその人を愛しているから示す善意です。ダビデはおそらく、今、出エジプトにおいて示された神の恵みを思い出しているのだと思います。「ひとみのように見守り、御翼の陰に」と言っていますが、これが、主がモーセを通して、イスラエルをどのように守られたかをお語りになられた時に出てきた表現です(申命 32:10)。私たちも賛美していますね、「陰に隠し(Be Still)」ですが「御翼の陰に隠し、力ある御腕の中に」とあります。そして右の手は、自分をかくまってくれる力です。ちょうど女の人が、自分の愛する男の右腕にかくまわれて、その男が相手に立ち向かうイメージです。

2C 引き裂く敵からの救い 10-15

17:10 彼らは、鈍い心を堅く閉ざし、その口をもって高慢に語ります。17:11 彼らは、あとをつけて来て、今、私たちを取り囲みました。彼らは目をすえて、私たちを地に投げ倒そうとしています。17:12 彼は、あたかも、引き裂こうとねらっている獅子、待ち伏せしている若い獅子のようです。

サウルの陣営は、ダビデを中傷し、そして彼を殺そうとして取り囲みました。その原因はひとえに「鈍い心を堅く閉ざし」ということでした。主が何を行なわれ、何を御心とされているのか、そのことに心を堅く閉ざし、鈍くなっていたのです。ステパノを石で打ち殺そうとしていたユダヤ人に対して、彼は、「かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。(使徒 7:51)」と言いました。霊的に見えているのか、そうでないのかで、これだけ大きな差が出てきます。

17:13 主よ。立ち上がってください。彼に立ち向かい、彼を打ちのめしてください。あなたの剣で、悪者から私のたましいを助け出してください。17:14 主よ。人々から、あなたの御手で。相続分がこの世のいのちであるこの世の人々から。彼らの腹は、あなたの宝で満たされ、彼らは、子どもらに満ち足り、その豊かさを、その幼子らに残します。17:15 しかし、私は、正しい訴えで、御顔を仰ぎ見、目ざめるとき、あなたの御姿に満ち足りるでしょう。

主が「立ち上がってください」とお願いしています。敵に立ち向かうために立ちあがってください、

ということです(民数 10:35 参照)。そして、14 節と 15 節が大きな対比です。14 節は今、自分を迫害している者たちのことです。そして 15 節は自分自身のことです。迫害者を、「この世のいのちであるこの世の人々」と言っています。彼らは、この世において子沢山に恵まれています。それらは神ご自身から来たものですが、それを認めずに、自分の繁栄している姿で満足しています。そして、このように神を認めない者たちが子孫にも受け継がれていく姿を描いています。

しかしダビデは、死んだ後の希望を語っています。前回の詩篇 16 篇と同じ希望です(10-11 節)。世の人は、子沢山で満足しますが、ダビデは、「目ざめるとき」、主の御姿を見て満ち足りることでしょう、と言っています。この目覚めるといのが、復活のことです。信じる者は死んでも、眠っていると表現されます。ですからよみがえるのは、お目覚めなのです。

つまり、ダビデの受けている迫害は、何とかして神のことから目を引き離して、人間のことに仕向けようとする圧迫と力です。私たちは絶えず、この迫害を受けています。神の前に正しくあろう、つまり、自分を神の前にありのままの姿で持っていき、神に知っていただき、そのへりくだりの中で生きる時に、「あなたはなぜ、こんなことをしているのですか。」という強い、そしてもっともらしい疑問を投げかけられます。主を愛して行なっていることが、あたかも悪いことをしているかのように言われて、直ぐな心で神に仕えることを妨げようとするのです。しかし、ダビデはその圧迫をふるいのけて、復活の後に主から与えられる報酬に目を留めたのです。

2B 敵からの救い 18

18 指揮者のために。主のしもべダビデによる。主が、彼のすべての敵の手、特にサウルの手から彼を救い出された日に、この歌のことは主に歌った

ダビデが、晩年にこの歌を歌いました。サムエル記第二の最後にも同じ詩歌が書き記されています。ダビデは、主の名によって誓う時に、「私のいのちをあらゆる苦難から救い出してくださった主は生きておられる。」と言いました(2サムエル 4:9、1列王 1:29)。これが、彼の実感のこもった神の姿でした。苦難からの救いをもってダビデは神を知ったのです。

1C 救いの岩なる主 1-3

18:1 彼はこう言った。主、わが力。私は、あなたを慕います。18:2 主はわが巖、わがとりで、わが救い主、身を避けるわが岩、わが神。わが盾、わが救いの角、わがやぐら。18:3 ほめたたえられる方、この主を呼び求めると、私は、敵から救われる。

この詩歌は、50 節まで続く長いものですが、ダビデはこれまでの自分の生涯を振り返りますが、ここの三節がその要約になっています。主が、私を救い、私を守る力となってくださったということです。巖、とりで、救い主、身を避ける岩、神、盾、救いの角、やぐら、とありますが、これらがみな、自分の安全を保障する確かな力を言い表しています。自分の知っている言葉でありつたけの表現

を使って、神をほめたたえているのです。

そして、「わが」という言葉を何度も繰り返しています。個人的な神、自分に個人的に関わってくださっている神ということです。私は、ある人に、「あなたの罪のためにイエス様は死なれたのだよ。」と言ったら、彼女は、「私だけじゃないでしょう。」と言いました。けれども私は、「私の罪のために、と言えなかったら、救いも自分の救いにならないよ。」と説明しました。個人的に救ってくださる方なのです。そして、ダビデはあらゆる苦難を通りましたが、彼は深い安心がありました。「呼び求めると、敵から救われる」のです。ダビデのすることは、呼び求めることでした。そして救うのは、主がしてくださいました。

このように、圧倒的に神が自分に良くしてくださっている、その恵みを知っているので、1 節で「あなたを慕います。」と言っています。これは、愛している時に使う深い愛情表現です。普通は、父や子に対して、「かわいそうに思う」「深く憐れむ」という時に使います。けれどもダビデは、主からこれだけ良くしてもらったので、その言葉を主に対して使っています。私はこの方を愛し慕っているのだ、と決意したのです。

2C 大水からの救い 4-19

18:4 死の綱は私を取り巻き、滅びの川は、私を恐れさせた。18:5 よみの綱は私を取り囲み、死のわなは私に立ち向かった。18:6 私は苦しみの中に主を呼び求め、助けを求めてわが神に叫んだ。主はその宮で私の声を聞かれ、御前に助けを求めた私の叫びは、御耳に届いた。

ダビデは、死の危険に瀕している時の感情を、追いつめられて、罨にかかり、それから綱に巻かれて、その後に川の中に投げ込まれるように形容しています。しかし、そのような逆境に神は影響されるような方ではありません。神は全く動じることなく、天にその御座を持っておられる方であり、その宮において聖徒の叫び声を聞くことのできる方です。

18:7 すると、地はゆるぎ、動いた。また、山々の基も震え、揺れた。主がお怒りになったのだ。18:8 煙は鼻から立ち上り、その口から出る火はむさぼり食い、炭火は主から燃え上がった。18:9 主は、天を押し曲げて降りて来られた。暗やみをその足の下にして。18:10 主は、ケルブに乗って飛び、風の翼に乗って飛びかけられた。18:11 主はやみを隠れ家として、回りに置かれた。その仮庵は雨雲の暗やみ、濃い雲。18:12 御前の輝きから、密雲を突き抜けて来たもの。それは雹と火の炭。18:13 主は天に雷鳴を響かせ、いと高き方は御声を発せられた。雹、そして、火の炭。18:14 主は、矢を放って彼らを散らし、すさまじいいなずまで彼らをかき乱された。18:15 こうして、水の底が現われ、地の基があらわにされた。主よ。あなたのとがめ、あなたの鼻の荒いぶきで。

ダビデは、17 篇でそうであったように、出エジプトにおける神の力と栄光を思い出しながら語っています。主がシナイ山に降りて来られた時に、力と栄光と、そして裁きをもって降りて来られました。

また、エジプトに対して、暗闇や雹をもって災いを下されました。また、紅海を分けて、その乾いた所をイスラエルの民が歩き、エジプト人から彼らを救われました。この同じ神が、ダビデにも働いてくださり、サウルの手から救ってくださったということです。

ダビデは、出エジプトにおける神の救いが信仰の土台でしたが、私たちにとって、福音書に出てくるイエス・キリストの働き、十字架と復活、そして昇天されて聖霊が弟子たちに降って、御言葉を宣べ伝えていく、その聖霊の働きをもって、神は私たちに臨んでおられます。聖霊が事を成し遂げてくださる時、私たちは確かに新約聖書の神は生きておられると確認することができます。

18:16 主は、いと高き所から御手を伸べて私を捕え、私を大水から引き上げられた。18:17 主は私の強い敵と、私を憎む者とから私を救い出された。彼らは私より強かったから。18:18 彼らは私のわざわいの日に私に立ち向かった。だが、主は私のささえであった。18:19 主は私を広い所に連れ出し、私を助け出された。主が私を喜びとされたから。

ダビデは、「主は」と繰り返しています。主が救い出され、主が支えとなってくくださり、主が連れ出して助け出され、主が喜びとなってく下さいました。この最後の言葉、「主が私を喜びとされた」というのは、すごい言葉です。ダビデはこれだけ、主が自分に対して良く思ってく下さっていると自信があったのです。自分の行ないに関わらず、主が一方的に自分に良くしてく下さった恵みがあります。また、そのようにダビデは神を信頼していました。皆さんにはあるでしょうか？主が自分の味方になってく下さっている、という安心感と余裕はあるでしょうか。

そして、他の二つの言葉に注目します。一つは、「彼らは私より強かったから」です。自分が敵よりも強い対等だと思っていれば、自分で戦ってしまいます。けれども、ダビデは自分の力で救うことはできないことを知っていました。だからこそ、救うのは主ご自身であることを知っていました。そしてもう一つの言葉は、「広い所」です。苦しみというのは、ある意味で狭い所であります。追いつめられて、部屋の角のところに袋小路にされているような状態です。しかし、主が救い出してく下さると、広い所に導いてくださいます。心に余裕が出ます。心が寛容になれます。主が願われていることを自由に行なうことができるという開放感があります。

3C 義に対する報い 20-34

18:20 主は私の義にしたがって私に報い、私の手のきよさにしたがって私に償いをされた。18:21 私は主の道を守り、私の神に対して悪を行なわなかった。18:22 主のすべてのさばきは私の前にあり、主のおきてを私は遠ざけなかった。18:23 私は主の前に全く、私の罪から身を守る。18:24 主は、私の義にしたがって、また、御目の前の私の手のきよさにしたがって私に償いをされた。

これは、17 篇にあるダビデの身の潔白と同じことを話しています。ダビデが主に見える時に、恥ずかしいこと、やましいことがありませんという良心の清めを話しています。ダビデは罪を犯さなか

ったではありません。パテ・シェバのこと、ウリヤの殺人の件がありました。けれども、彼はそれをも主の前に持っていき、その悔いの中で神の取り扱いを受けました。彼は罪を犯したとしても、隠すことなく、そのまま頭を垂れて主の前に出ていったのです。

このような良心の清めを保っておくことは、キリスト者が終わりの日に主にお会いする時に必要な要素となっていきます。「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。(1テサロニケ 5:23-24)」私たちが聖めの中に自分を保っていく責任があるし、また、主ご自身がその聖めを保ってくださいます。

18:25 あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ、18:26 きよい者には、きよく、曲がった者には、ねじ曲げる方。18:27 あなたは、悩む民をこそ救われますが、高ぶる目は低くされます。

これは、神の私たちに対する態度が、私たちの行ないに拠っているということではありません。これは神の報いの話をしているのではなく、神との交わりの話をしています。似た表現が、主の山上の垂訓の中で出てきます。「あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。(マタイ 5:7)」とあります。また、「我らが罪を赦すがごとく、我らの罪をも赦したまえ。」という主の祈りもあります。他の人たちに対する私たちの態度、姿勢が、主との関係に深く関わっています。その人が他者にどのように関わっているかによって、その人から見てくる神がどのような方が分かります。

18:28 あなたは私のともしびをともしられ、主、私の神は、私のやみを照らされます。18:29 あなたによって私は軍勢に襲いかかり、私の神によって私は城壁を飛び越えます。18:30 神、その道は完全。主のみことばは純粋。主はすべて彼に身を避ける者の盾。18:31 まことに、主のほかになだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。18:32 この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。18:33 彼は私の足を雌鹿のようにし、私を高い所に立たせてくださる。18:34 戦いのために私の手を鍛え、私の腕を青銅の弓をも引けるようにされる。

ダビデは、サウルの手から救い出された後、周囲の敵と戦っていきました。サムエル記を注意深く読むと分かりますが、彼が国や領土を拡張したことはありません。彼はあくまでも周囲の国々と平和を持とうとしていました。けれども相手が敵対行為をしてくるので、自衛として戦っていきました。したがって、イスラエルの戦いは常に敵からの救いなのです。自分を滅ぼそうとするものに対して戦うことによって自分たちを守っていきました。

これは、今の国々も同じ一般的原則をもって、軍隊を有しています。けれども、イスラエルは独特

でした。それは、その王が主なる神に拠り頼み、この方の道、この方の御言葉を信じていくことによって、神によって戦ったということです。自分たちの国が力があり、栄光に輝いていることを誇示するために戦うのではなく、神がご自分の国あるいは支配を拡げるために、ダビデのために神が戦われるのです。したがって、信仰の原則と神の国の現れとして、ダビデが神によって立っており、それでダビデは戦闘において、これだけ神の臨在を意識していたのでした。

新約聖書においては、イエスが来られたこと自体が戦いでありました。「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。(マタイ 12:28)」悪魔の支配するこの地上に、イエスの権威と力が入り込んでいて、激しく攻めているのです。ダビデの子がキリストであられ、ダビデが戦ったことは、キリストがこの地上で戦っておられることを予め示すものでした。

4C 国々の征服 35-45

18:35 こうしてあなたは、御救いの盾を私に下さいました。あなたの右の手は私をささえ、あなたの謙遜は、私を大きくされます。18:36 あなたは私を大まかで歩かせます。私のくるぶしはよろけませんでした。

戦いにおいて、余裕のある勝利を神がダビデに与えておられる姿です。ここで大事な神のご性質と働きは、「あなたの謙遜」です。新共同訳では、「あなたは自ら降り、わたしを強い者としてくださる。」となっています。主がダビデのところまで降りて来てくださって、そのへりくだりの姿があるので、ダビデが力ある者となりました。「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは思えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。(ピリピ 2:6-7)」キリストのへりくだりがあるので、私たちは神の子どもという大きな特権を得たのです。使徒パウロはこうも言っています。「2 コリント 8:9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」

18:37 私は、敵を追って、これに追いつき、絶ち滅ぼすまでは引き返しませんでした。18:38 私が彼らを打ち砕いたため、彼らは立つことができず、私の足もとに倒れました。18:39 あなたは、戦いのために、私に力を帯びさせ、私に立ち向かう者を私のもとにひれ伏させました。18:40 また、敵が私に背を見せるようにされたので、私は私を憎む者を滅ぼしました。18:41 彼らが叫んでも、救う者はなかった。主に叫んでも、答えはなかった。18:42 私は、彼らを風の前のちりのように、打ち砕き、道のどろのように除き去った。

主が、敵に対して圧倒的な勝利を与えておられる姿であります。けれども、今、見ましたように、ダビデは決してへりくだられた主の姿を忘れませんでした。このようにして、彼は高慢の罪から遠ざかっていたのです。この恵みを忘れなかったゆえに、ダビデは偉大な者となりました。

18:43 あなたは、民の争いから、私を助け出し、私を国々のかしらに任ぜられました。私の知らなかった民が私に仕えます。18:44 彼らは、耳で聞くとすぐ、私の言うことを聞き入れます。外国人らは、私におもねります。18:45 外国人らはしなえて、彼らのとりでから震えて出て来ます。

異邦人の国々を平定している姿です。サウルの手から救い出された神は、周囲の国々の争いからも救い出されたのです。ここで大事なことは、民の争いから助け出すために、ダビデを国々の頭としたことです。もしダビデが頭にならなければ、敵どもは神に敵対しているために、彼を徹底的に滅ぼそうとします。神に拠り頼んでいるダビデが頭となり、国々を従わせることにより初めてイスラエルもダビデ自身も救われることになるのです。

これは、私たち人間そのものであります。私たちは、自分自身について、キリストが自分の頭となり、主とならない限り、いつまでも自分を主張します。そして、イエス様がピラトの前に立っておられたときに、「十字架につけろ」と叫んだ群衆のようになります。唯一、キリストに自分自身を従わせることにより、キリストに服従することにより、神の平和を享受することができます。

5C 国々の中での賛美 46-50

18:46 主は生きておられる。ほむべきかな。わが岩。あがむべきかな。わが救いの神。18:47 この神は私のために、復讐する方。神は諸国の民を私のもとに従わせてくださる。18:48 神は、私の敵から私を助け出される方。まことに、あなたは私に立ち向かう者から私を引き上げ、暴虐の者から私を救い出されます。18:49 それゆえ、主よ。私は、国々の中であなたをほめたたえ、あなたの御名を、ほめ歌います。

ダビデは、これまでの生涯を振り返り、そして最後に最初でそうであったように主をほめたたえています。49 節には、「国々の中であなたをほめたたえ」とあります。今、神のことを知らなかった国々もダビデ王国にひれ伏すことによって、イスラエルの神が国々の神ともなっているのです。使徒パウロはこれを、異邦人宣教に当てはめました(ローマ 15:8-9)。ユダヤ人だけでなく、異邦人の中でキリストの御名があがめられるようになるため、福音を彼は宣べ伝えました。

18:50 主は、王に救いを増し加え、油そそがれた者、ダビデとそのすえに、とこしえに恵みを施されます。

王ダビデが救われるということは、ダビデに約束された世継ぎの子がとこしえの神の国を治めるという約束が実現するという事です。油注がれた者はダビデ自身でもあります、そのヘブル語は「メシヤ」です。キリストご自身によって、ダビデに示された神の恵みは完成します。

3B 主への畏れ 19

19 指揮者のために。ダビデの賛歌

午前礼拝において学びましたように、ここでは神が私たちにご自分を現し、それで私たちが神のすばらしさに畏敬の念を抱く賛歌であります。

1C 黄道にある栄光 1-6

19:1 天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。19:2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。19:3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。

天体における神の栄光です。昼であれば太陽の動き、夜であれば月や星の動きです。

19:4 しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。19:5 太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。勇士のように、その走路を喜び走る。19:6 その上るのは、天の果てから、行き巡るのは、天の果て果てまで。その熱を、免れるものは何もない。

ダビデは、誰もが神のこの栄光を見ないでいることはないことを示すために、太陽の運行、黄道について話しています。どの国も、どの民族も、誰もが神を知らないことはないことは言えないのです。日本人は仏教や神道で、キリスト教は西洋人の宗教だというのは、太陽は日本だけには照らされないと言っているのに等しいのです。

2C 主の仰せのきよさ 7-11

19:7 主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。19:8 主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。19:9 主への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。主のさばきはまことであり、ことごとく正しい。19:10 それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。19:11 また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。

なんとすばらしいことでしょうか、私たちには自然だけでなく、主の言葉という神の啓示をいただいています。聖書という、神の靈感を受けた言葉によって私たちの魂は生かされ、賢くなり、心は喜び、そして目は明るくなります。私たちは全人的に健康になれるのです。使徒ヨハネは、第三の手紙でこう書きました。「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。(3ヨハネ 2-3)」神の言葉の真理に歩んでいるので、彼はすべての点で幸いを得て、健康なのです。

3C 罪からの守り 12-14

19:12 だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦しください。19:13 あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんよ

うに。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。19:14 私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。

神の造られた自然を見、そして神の息が吹き込まれている言葉を読む時に、私たちには神の清めが行われます。イエスは弟子に言われました。「あなたがたは、わたしがあなたに話したことばによって、もうきよいのです。(ヨハネ 15:3)」その清めは、私たちが自分では知ることのない数々の過ちが示されることによって始まります。御言葉は、私たちの心の鏡であります。そして清めは、私たちに傲慢の罪に対する警告を与えてくれます。罪であると分かりながら、それでも故意に、意図的に犯し続ける時に、自分を神から大きく引き離してしまう危険があります。自分のしていることが分からず、自分自身は神に仕えている等と豪語する偽りさえ抱いてしまいます。

そして、17-18 篇に出てきた共通のテーマが出てきます。「良心のきよめ」です。自分の心の思い、また口から出る言葉が神に受け入れられたものとなっているように願っています。そのためには、神の贖いが必要です。自分の罪を赦し、清め、そして神が自分をご自分のものとしてくださる働きが必要です。

2A 民の執り成し 20-21

次の二つの賛歌は、イスラエルの民がダビデ王のために執り成しをし、また感謝を捧げるものになっています。20 篇にて、民が戦いに出る王のために執り成しをし、21 篇にて戦いに勝利したことを、神に感謝している内容になっています。

1B 勝利への祈り 20

1C 王の献身 1-5

20 指揮者のために。ダビデの賛歌 20:1 苦難の日に主があなたにお答えになりますように。ヤコブの神の名が、あなたを高く上げますように。20:2 主が聖所から、あなたに助けを送り、シオンから、あなたをささえられますように。20:3 あなたの穀物のささげ物をすべて心に留め、あなたの全焼のいけにえを受け入れてくださいますように。セラ

民がダビデに対して、「あなた」と言っています。民はダビデという人に期待しませんでした。そうではなく、ダビデを高く上げてくださる神に期待しました。ダビデのために神に祈っているのです。1 節には、ダビデが苦しみから助けられる神をいつも思い出していましたから、そのことを民も祈っています。そして、2 節はシオンにある神の箱を思って祈っています。神のおられるところから、助けが来ますようにという祈りです。そして 3 節は、ダビデの礼拝行為です。ダビデは自分が王であっても、その前に神ご自身を王とする礼拝者でした。神への礼拝者であるからこそ、王として国を救うことができるのです。

20:4 主があなたの願いどおりにしてくださいますように。あなたのすべてのはかりごとを遂げさせ

てくださいますように。20:5 私たちは、あなたの勝利を喜び歌いましょう。私たちの神の御名により旗を高く掲げましょう。主があなたの願いのすべてを遂げさせてくださいますように。

これは、これから戦いに出ていく王に対して、その計画や戦略、行動について主が成功させてくださいますように、という祈りです。すばらしいですね、主がダビデと共におられるという確信があるので、ダビデの願うことがそのまま神の願っておられることなのだという確信があります。そして、主が王を救ってくださる、勝利を与えてくださるとの確信まであります。今、勝利の旗も高く上げましょうと叫んでいます。私たちもキリストにあって、信仰の戦いにおいて同じように確信を持つことができます。「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。(ローマ 8:37)」

2C 御名の誇り 6-9

20:6 今こそ、私は知る。主は、油をそそがれた者をお救いになる。主は、右の手の救いの力をもって聖なる天から、お答えになる。

これもすごいです。イスラエルの民の確信もすごいです。今、ダビデ自身も主が救ってくださる、勝利させてくださるとの確信を持っています。「私は知る」とダビデは言っています。改めて、私は知ったということです。そして、「油注がれた者」であります。ヘブル語でメシヤであります。けれども、元々の意味はここにあるように、神が王を任命されることを示すために油注ぎを行います。同じように祭司が任命される時も行ないますし、預言者に対しても行ないます。

聖霊の働きを、使徒ヨハネは「油注ぎ」と言って、キリスト者に与えられた油注ぎをこう教えました。「あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、…その教えは真理であって偽りではありません。…また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。(1ヨハネ 2:27)」このように、キリストの内に留まっている者が、聖霊の油注ぎを受けています。聖霊の働きについて私たちはとく、油注ぎが与えられるよう、その働きに着目して期待しています。しかし、油が注がれていたダビデを見てください。彼は徹底的に、熱烈なまでに主に身を避けることに関心があり、主の中に自分がいることを慕い求めていました。キリストの内にいることを熱烈に求めている人が、聖霊に満たされることのできるのです。

20:7 ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、主の御名を誇ろう。20:8 彼らは、ひざをつき、そして倒れた。しかし、私たちは、立ち上がり、まっすぐに立った。

有名な、ダビデの確信に満ちた信仰告白です。先ほど話しましたように、イスラエルは神の国を具現化するために選ばれた国です。通常の軍隊では決してあり得ないことも行なっていました。そ

の一つが、戦のための馬の筋を切ることです(2サムエル 8:4)。馬は、今の国家で言うならば、戦車であり、戦闘機であります。これらがどれだけあるかによって、国の強さを示すことができるし、また国の安全保障になっています。しかし、これらを敢えて縮小してしまうのです。なぜなら、イスラエルの戦いは初めから、神の戦いだからです。神の国が拓がるための戦いであり、神が彼らを守られます。ダビデとゴリヤテとの戦いがそれを象徴しています。「ダビデはペリシテ人に言った。『おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。』(1サムエル 17:45)」

私たちの教会が、決して物理的な安全の中に頼ることがないように祈りたいです。いつも、主の御名によって祈り、その祈りが叶えられた中で安心を得る群れでありたいです。危険なのは、見た目は変わらないので、次第に人間的なものに、肉的な物に拠り頼むことであります。これは実際に起こったことですが、アメリカの大きな教会の牧師が、結婚についての自著がベストセラーになるために、宣伝するための会社に依頼したことが発覚しました。教会が大きくなる、人々が増える、こうしたことが必ずしも神からの祝福ではなく、人間的な動員の結果であるのです。だから、私たちはいつも、イスラエルの民がダビデのために祈ったように祈ります。

20:9 主よ。王をお救いください。私たちが呼ぶときに私たちに答えてください。

王が救われること、つまり戦いに王が勝利することを祈っています。大事なのは、「呼ぶときに答えてください」という祈りです。主に呼びかけて、主が答えてくださる、そのような祈りに満ちた私たちにしてくださいという願いです。

2B 勝利への感謝 21

1C 王への尊厳と威光 1-6

21 指揮者のために。ダビデの賛歌 21:1 主よ。王はあなたの御力を、喜びましょう。あなたの御救いをどんなに楽しむことでしょう。21:2 あなたは彼の心の願いをかなえ、彼のくちびるの願いを、退けられませんか。セラ

救いを願う祈りも大切ですが、ここにあるように、救いを与えてくださったことを感謝し、喜ぶ祈りも非常に大切です。私たちは祈りが聞かれるままでは熱心に祈るのですが、祈りが聞かれた時に感謝のいけにえを捧げるのを忘れてしまいます。しかし、主が成し遂げてくださったことを喜び、楽しむことも、主との関わりの中で非常に大切な奉仕です。

21:3 あなたは彼を迎えてすばらしい祝福を与え、彼のかしらに純金の冠を置かれます。21:4 彼はあなたに、いのちを請い求めました。あなたは彼に、とこしえまでの長い日々を与えられました。21:5 御救いによって彼の栄光は、大きい。あなたは、尊厳と威光を彼の上に置かれます。21:6 あなたは、とこしえに彼を祝福し、御前の喜びで彼を楽しませてくださいます。

ダビデに対して神が豊かな祝福と栄光、尊厳を与えておられることを喜んでいますが、そこにはダビデに対する永遠の契約があるからです。純金の冠という言葉にも、またとこしえまでの長い日々という言葉にも、とこしえまでの祝福と喜びというのも、肉体をもったダビデに対する祝福以上の祝福であります。ダビデの子、キリストによって成就する約束であります。キリストが栄光の王冠をかぶり、永遠の命であられ、そして尊厳と栄光を持っておられます。私たちは、このキリストの統治を、再臨されてから千年間、持つことができます。

2C 御力ゆえの賛美 7-13

21:7 まことに、王は主に信頼し、いと高き方の恵みによってゆるがないでしょう。

ここがこの賛歌の中心的な節になると思います。「王が主に信頼している」ということです。そして主の何に信頼しているかと言えば、恵みに信頼しています。ダビデという名の意味は、「愛される者」でありましたが、ダビデが何かすぐれていたから王となっていたのではなく、彼が神に愛されているという保障があるから、イスラエルの国は救われていたのです。その証拠に、8 節から 13 節は神が一方的に敵を打ち滅ぼしておられる姿を見ます。神が勝利してくださることを、ダビデは全幅の信頼によって信頼していたところに、神の国の現れがあったのです。

キリストご自身の中に、これは見出されるものです。父なる神はイエス様のことを、「これは、わたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」と言われました。そして、イエスが行われた業は、すべて父なる神からのものであり、それゆえイエスの周りに神の国が広がりました。イエス様に何か力があつたかといえば、もちろん神の御子としての全能の力がありました。しかし、その力は父なる神から切り離して考えるものではなく、むしろ父なる神に愛され、そこから生じる父なる神への全幅の信頼があつたので、神の支配が広がりました。この言葉、「主に信頼し」ということが、どれほど私たちができるかによって、神の国の広がりを私たちの間で決まってきます。

21:8 あなたの手は、あなたのすべての敵を見つけ出し、あなたの右の手は、あなたを憎む者どもを見つけ出します。21:9 あなたの御怒りのとき、彼らを、燃える炉のようにされましょう。主は御怒りによって彼らをのみ尽くし、火は彼らを食い尽くすでしょう。21:10 あなたは、地の上から、彼らのすえを滅ぼされましょう。また、人の子らの中から、彼らの子孫をも。21:11 彼らが、あなたに対して悪を企て、たくらみを設けたとしても、彼らには、できません。21:12 あなたは彼らが背を見せるようにし、弓弦を張って彼らの顔をねられるでしょう。

敵が完全に滅ぼされることを、イスラエルの民は信仰の目によって見ています。そしてこの姿はもちろん、キリストの再臨によって成就します。神とキリストに反抗する者どもは、二度と起き上がることなく滅ぼされます。

21:13 主よ。御力のゆえに、あなたがあがめられますように。私たちは歌い、あなたの威力をほ

め歌います。

ここにはダビデ王の姿はありません。彼らの賛美は、ダビデを通り越して神ご自身に直接つながっています。もしかしたら、ダビデ自身も民と共にこの賛美を捧げているかもしれません。主がダビデを立てておられ、ダビデが王なのですが、神の前ではみな等しく主を賛美しています。

これを祈りとしていきましょう。私たちの内に、祈りと賛美が満ちますように。自分たちの力ではなく、私たちの呼び求めに主が答えてくださる、その御業で満ちますように。そして、私たちが何かをするのではなく、主がしてくださることをあがめ、ほめたたえていきますように。私たちが主に全幅の信頼を寄せ、主が喜んでおられることを信じられていますように。そこにこそ、神の働きが始まります。